

## より良い会議をしていますか？

世の中のどのような組織でも、様々な内容の会議が連日行われていますが、「時間が長い」「同じ人ばかりが発言する」「新たな参加者が発言しにくい」など、会議の進め方には課題を感じている人も多いと思います。また「会議で決まったものの、納得できない」「みんなで決めたはず

なのに、動いてくれない」というような声が、会議終了後に聞こえてくることもあります。

今回は福岡市を拠点に活動する NPO 法人ドネルモ事務局長の宮田智史さん（右写真）に、日ごろの会議のすすめ方についてお話を伺ってきました。



## 【事例】NPO法人ドネルモの取り組み “対話”を重視した会議

会議は関係者が集まって、ある事柄について議論したり、意思決定をしたりする場です。ただし活発な会議にならない場合、その理由の1つに会議のメンバーが、“ただの出席者”になっていることが考えられます。そのため、法人運営や事業などで会議をよく手掛けている宮田さんは、会議のメンバーがより主体的な「参加者」になるための工夫として、“対話”を重視した会議を心がけているとのことでした。

宮田さんは「通常の会議は議論が重視されすぎている」と言います。“決めるべきことを決める”に注力してしまうと、声の大きな人の意見が通りやすくなるなど、参加者全員の納得感が得られず、不満を持つ人が増えてしまうからです。



▲「地域デザインの学校」は多様な人々の対話が重要

それに比べ「対話」は、互いの意見を聞き合うことで多様な考えに気づき、相互理解を深める効果があるといわれており、納得感の高い話し合いになります。さらに、工夫しているポイントを教えてもらいました。

- ①事前に「議題」を提示、会議目的を共有
- ②あらかじめ時間を設定、時間を守る
- ③机の配置を工夫、参加者同士の距離感を意識
- ④ホワイトボードなどを使って、内容を可視化

これらのポイントを踏まえ、「参加者が安心して発言できる場」をつくり、参加者一人ひとりの声を聞く努力が大切とのことでした。

特に、初めて参加する人や日ごろなかなか発言しない人に対しては、会議の前に話や意見を聞いておくことで、「以前はこういった意見をお持ちでしたが、これについてはどう思いますか？」と声をかけることができ、会議中に言葉を引き出すきっかけにつながるといいます。

会議は、司会・進行する人だけが努力してもよいモノにはならない、だからこそ、「参加者も一緒につくる」ことが重要であり、常に参加者にもそれを意識してもらい、そのような場づくりや対話を大切にしている、と宮田さんは力説していました。

### 【団体紹介】NPO 法人ドネルモ

超高齢化社会を見据え、一人ひとりの可能性が誰かと関わることでかたちになってゆく社会をつくることをビジョンに掲げ、「地域デザインの学校」事業を中心に、支えあいのかたちをつくるための、「場づくりやしきみづくり」、「担い手の育成」を行っています。

## 一歩進むための「会議」のススメ

宮田さんは、「会議はやる前よりも後の方が、お互いの理解や課題への対処が前進した状態を作るもので、ただ行えばいいというものではない」とおっしゃっていました。まちづくり支援室には、“会議の5か条”を掲示しています。ぜひ参考にしてください。

## 《志免子育て支援コミュニティ おおきな木》



▲子どもたちの遊びの力は無限大

<今年度 10 回以上のプレーパーク事業を計画中>  
詳しくは <http://s-ookinaki.org/index.html>  
団体HPでご確認ください。

志免町の子どもたちが健全に育つために何が必要かを考え、町内で活動している「おおきな木」では、大人の学びになる講座の実施や、プレーパーク事業の推進のため、「子どもゆめ基金」という助成金に応募し、昨年度に続き、今年度も活動資金を確保しました。

代表の山崎さんによると、「人材育成と、その後の継続的な活動を加速させるために、助成金を活用しました。事業のための付帯経費も認められており、助成金の使い道について使用可・不可の項目が細かく設定されているのでわかりやすい。」とのことでした。

団体側と助成側のねらいが一致すること、申請書作成や事業報告書提出といった様々な事務作業を着実に実行することなどが、資金確保につながったようです。

『住民でできることは、住民自らが取り組むまちづくり』を目指して活動している「Team 前向き」では、今年 10 回目を迎える「しめ夏まつり」や、毎年 11 月に志免町と協働して開催している「ともともプロジェクト」を企画・実行しています。活動の資金は、団体メンバーが町内の企業・店舗・団体・個人に対し、積極的に足を運んで、広く協賛を依頼し、集めています。夏まつりの出店者から出店料も集め、財源に充てています。

助成金を受けたときの事業報告書提出がない分、団体内で資金の使途を明確にし、事業終了後に協賛をいただいた方々に対し、お礼状を準備して訪問するなど、丁寧な対応をすることで、より良い関係を継続していけるよう心がけていらっしゃいました。

## 《Team 前向き》



▲協賛いただいた方のお名前を当日、会場に掲示します！

<第 10 回しめ夏まつり開催決定！>  
日時/8月19日(日) 16:00~20:30  
場所/シーメイトグラウンド

## 【取材から見たこと】

活動資金の確保は、多くの住民活動団体にとって課題になるテーマです。上記 2 団体の取り組みから、自団体の活動に合った方法で、地道にコツコツと確保に向けて取り組んでいくことの大切さを感じました。

活動資金を確保する際に、団体内で整理しておくポイントは次の通りです。

### ～資金確保のためにまず整理すること～

- ①いくら必要なのか、金額を計算する
- ②必要な資金の「使い道」を明確にする

上記 2 点を整理したうえで、いくつかの資金確保の方法から、自団体に合うやり方を選んで実行していくと、目標とする金額に近づく可能性が高まります。自主的な財源確保に向けて、団体内部で検討してみましょう。